

# カーシェア

# 被災地で発進

▼カーシェアリング 自動車 か、排ガスや駐車スペースを減らせるなど環境に優しいとされ、昨年比約1.5倍。車を組み、相乗りとは違い、時間を注目が高まっている。国土交通省は今年約2倍となっている。

東日本大震災で大きな被害が出た宮城県石巻市で、被災者が自動車を共同で無料利用する「被災地版カーシェアリング」の試みが始まった。同市では生活に欠かせない車を津波などで失った人が多く、車両は民間の支援団体が提供した。ただ、「見知らぬ同士のシェア」という壁のためか、利用は低調。本格的に根付かせるには仮設住宅などでのコミュニティーづくりなど課題も多い。

## 見知らぬ同士気兼ね 利用低調



車を共同で利用する石巻市仮設住宅の被災者ら（7月31日、宮城県石巻市）

7月下旬、宮城県石巻市の石巻公園仮設住宅協会がカーシェアの実験を始めた。立ち上げた被災地の支援策を考える

「日本カーシェアリング協会」がカーシェアの実験を始めた。立ち上げた被災地の支援策を考える

## 「まず信頼関係づくり」

かけて仮設住宅内にも住民のカーシェアサークルが発足。8人がメンバー登録した。

通常のカーシェアリングは、運営会社がルールを定め、サービス料を徴収する形式が一般的。しかし、この被災地版カーシェアは、5人乗りの乗用車1台を共同で利用し、原則無料。車や保険料も京都府の物流会社などが寄付し、ガソリンや維持費もカンパなどでまかなう考えだ。メンバーは集会所の前にあるノートに予約を書き込み暗証番号で開く箱からキーを出して使う。

この車で石巻市の隣の女川町の温泉施設に出かけた力キ養殖業、平塚栄一さん（63）は「久しぶりに気分転換ができた」と笑う。家族3人が全員車を持っていたが、津波で1台が流出。残った2台も妻や長男が仕事や買い物で使うことが多い。無職の阿部ヒデ子さん（82）も「運転はできな

### 東日本大震災被害状況

死者	15,660人
行方不明	4,865人
(3日現在、警察庁まとめ)	
避難	87,063人
(7月28日現在、内閣府まとめ)	

いが、弟に病院まで送ってもらえると助かる」と話す。

ただ、住民からは「皆の車と思うと気兼ねしてしまう」「ほかの人との共同管理はおっくう」などの声も。スタートから1週間の利用は1日に1件程度で、8月中旬以降も続けるかは住民の意思

に委ねられている。

サークルに参加した自営業の後藤嘉男さん（70）は「非営利でシェアを続けるには互いの信頼関係が必要。仮設の同居者は隣近所もよく知らないケースが多いが、せつかくのシステムでもあり、コ

コミュニティーづくりと合わせ進めていきたい」と語る。

同協会のカーシェア支援事業は4日から石巻市の別の仮設住宅でも始まる予定。さらに、横浜市に設立された被災者支援の社団法人「DocoD e M o E c o C a r (ドコでもエコカー)」も、気仙沼市や女川町の仮設住宅にカーシェア用車両8台の提供を予定している。